

## ～ 林原賞 ～

## 略 歴



西森 久和

昭和50年10月27日生  
平成13年3月 岡山大学医学部医学科卒業  
平成18年4月 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科博士課程入学  
平成24年3月 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科博士課程修了  
平成13年5月1日 岡山大学医学部附属病院 第二内科（研修医）  
平成13年6月1日 呉共済病院 内科（研修医）  
平成15年6月1日 癌研究会附属病院（がん研有明病院）化学療法科（ジュニアレジデント）  
平成17年6月1日 岡山大学医学部・歯学部附属病院 血液・腫瘍内科（医員）  
平成22年6月1日 岡山大学病院 輸血部（医員）  
平成23年8月16日 岡山大学病院 腫瘍センター（医員）  
平成24年4月1日 岡山大学大学院医歯薬総合研究科 血液・腫瘍・呼吸器内科学（助教）

## 研究論文内容要旨

同種造血幹細胞移植は、白血病など血液悪性疾患に治療をもたらす治療法として確立しているが、移植片対宿主病（GVHD）は致命的合併症として今日なお克服すべき最大の課題である。GVHDは移植後早期に発症する急性型と、後期に自己免疫様の症状で発症する慢性GVHDに大別される。急性GVHDに比べ慢性GVHDに関しては、その基礎的研究が遅れており病態解明と治療法開発は急務となっている。本研究ではまず、慢性GVHD発症マウスモデルを用いて体内のT細胞を解析したところ、従来考えられていたTh2細胞に加えてTh1細胞およびTh17細胞が移植後後期に増加し、慢性GVHDの標的臓器である肝臓や肺に浸潤していることが明らかとなった。さらに血清中のTh1（IFN- $\gamma$ ）およびTh17（IL-17）サイトカインが増加していること、およびIFN- $\gamma$ ノックアウトマウス、IL-17ノックアウトマウスの移植後に慢性GVHDが軽減することから、Th1およびTh17細胞が慢性GVHD発症に関与していることが強く示唆された。最後に合成レチノイドであるAm80は、Th1・Th17への分化抑制作用をもち、移植後に投与することで慢性GVHDが抑制されることが明らかとなった。本研究の結果により、慢性GVHD発症の新たなメカニズムが解明されたとともに、これまでステロイド以外に有効な治療法がなかった慢性GVHDに対し、Am80は全く新たな作用機序をもつ薬剤として臨床応用される道が開かれた。